

■高校野球のケーススタディー（第4回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 追い越しアウトと得点

今回は、練習試合で実際に起きたちょっと珍しいプレイを紹介してみたいと思います。

2死1、3塁。打者は、ライトへ低いライナー性の打球を放ちました。右翼手は、ダイビングキャッチを試み、懸命に打球を捕球しようとしたが、ダイレクトでは捕球できず、ワンバウンド捕球となりました。1塁走者は、1死であると勘違いしたのか1、2塁間で逡巡した後、右翼手がダイレクトで捕球したものと誤って判断し、1塁ベースに戻ろうとしています。そして、打者走者が1塁ベースを回ったところで、1塁走者を追い越してしまいました。（2塁の審判員は、打者走者に対し、追い越しによるアウトの判定をしています。）

その後、打球を捕球した右翼手は、進塁していない1塁走者をアウトにしようと、2塁へ送球しました。また、3塁走者は、打者走者が1塁走者を追い越したときには、すでに本塁に到達していました。

この事例について、考えてみたいと思います。

- ① 右翼手は、1塁走者をアウトにしようと2塁へ送球しましたが、このプレイはどうなるのでしょうか？
右翼手は、2塁へ進塁義務が生じている1塁走者をフォースアウトにしようと2塁へ送球しています。
ところが、内野手が2塁ベースに触球する前に、打者走者は1塁走者を追い越し、すでにアウトになっていました。

打者が走者となったために、次塁へ進塁する義務が生じることを「フォースの状態」といいますが、内野手が、2塁ベースに触球する前に打者走者はすでにアウトになっていますので、もはやフォースの状態ではなく、1塁走者は2塁へ進塁する義務がなくなっていることとなります。

ですから、1塁走者は、1塁ベースにとどまってもアウトになりません。（規則 5.09(b)(6)、定義 30）



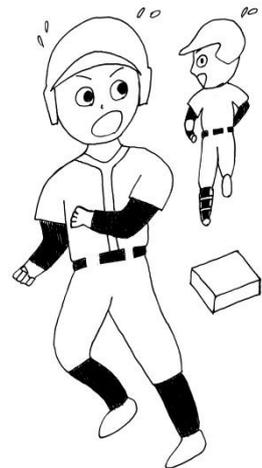
② 追い越しアウトとは・・・？

後位の走者（打者走者）が、アウトとなっていない前位の走者（1塁走者）に先じた場合は、後位の走者（打者走者）が追い越しによるアウトになります。（規則 5.09(b)(9)）

〔参考〕

この規定は、走者の位置が入れ代わったときに、後位の走者をアウトにすることを意味しています。

例えば、逆に前位の1塁走者が、後位の打者走者を追い越した場合でも、常に後位の走者がアウトになることを規定しています。



③ 得点は、どうなるのでしょうか？

第3アウトが追い越しによるアウトで、フォースアウト以外であることから、3塁走者の本塁到達が第3アウトより早ければ、得点が記録されることとなります。（タイムプレイ 規則 5.08(a)【注1】）

この事例の場合は、第3アウトが成立する前に、3塁走者の本塁到達が早かったため、得点1となりました。（このとき、球審は、第3アウトよりも3塁走者の本塁到達が早かったことを本塁へのポイントとコールで正しく明示していました。）

〔参考〕

この事例の場合で、もし、第3アウトが追い越しによるアウトではなく、2塁でのフォースアウトであったならば、そのプレイ中に3塁走者が本塁に達していても得点は記録されていなかったこととなります。（規則 5.08(a)【例外】）

※今回の事例を通じて、第3アウトがフォースプレイになるかどうかで、得点の記録に左右することが分かりましたね。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

坂田 朋葉さん（2年）

飛田 紀香さん（2年）